

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 9 月 18 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490500265		
法人名	株式会社くれせん		
事業所名	グループホームすまいる焼山		
所在地	広島県呉市焼山東1丁目19番47号 (電話) 0823-33-7373		
自己評価作成日	9月10日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3490500265-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島県広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成27年9月18日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者の生活リズムを整えることを考え、一日の時間の流れ、月日の移り変わり、季節の移り変わりを感じられる環境づくりに力を入れています。その中でご自分にできることは積極的に取り組めるようサポートしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

すまいる焼山は呉市焼山東1丁目の団地の奥にあり、背後は緑豊かな自然に囲まれており、平成25年に設立されたまだあたらしいグループホームです。道路面から1階まではエレベーターで上がります。1階には花壇や菜園が作られ夏には胡瓜やトマトがたくさんとれ、食卓を賑わしたようです。事業所の理念「自然に囲まれた静かな環境と家庭的な雰囲気作りを心がけ安心して暮らせる施設」をかかげ実践しています。又、立地している第三団地は地域交流が活発な地区で、運営推進会議に協調的で多数の地域の方が参加されたり、地域合同の花見行事・夏祭りや運動会には隣組感覚で誘いを受ける等地域密着の施設となっています。日常のケース記録を基にケア会議・担当者会議で実施状況を確認評価しながら利用者の意向を大切にしたいケアが実施されています。
--

グループホームすまいる焼山

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「自然に囲まれた静かな環境と家庭的な雰囲気作りを心がけ安心して暮らせる施設」を掲げ、実践している。	「自然に囲まれた静かな環境と家庭的な雰囲気作りを心がけ安心して暮らせる施設」を掲げ、実践している。また、理念をもとに「声掛け」など、具体的目標を作り半年や1年毎に振り返り意識化することも検討している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近隣の散歩を、ほぼ毎日実践し、回覧板を利用した交流もある。	町内会に加入し町内の清掃活動に参加している。幼稚園の行事や団地の夏祭りへ参加するほか、運営推進会議へも多数出席して頂いている。地域交流が活発な地域なのでホームからも特性を生かし、認知症への理解啓発や相談受入等、地域に貢献できる事を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議を通し、自治会や民生員、老人会に情報を発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回開催し、事業所の報告をしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、民生委員8名、自治会から会長ほか3名、包括支援センター長、施設からエリアマネージャーが参加し団地の自治会館で開催している。ホームの現状・日常生活・行事のお知らせ等行い、花見行事への参加要請等地域の情報提供やアドバイスを頂いている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	呉市担当者とは、各種相談を行い、書類の提出時に相談することがある。	法律上の疑問点など、そのつど照会し書類は持参し日頃から協力関係を築くようにしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	契約時の書面による説明と掲示。拘束にあたる事例はない。	外部研修に参加し、内部研修を実施して身体拘束について学習し、職員間で共有している。一部センサーを使用しているが、極力身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	研修会の開催。		

グループホームすまいる焼山

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会の開催。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時の書類作成。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱の設置。担当窓口を決め対応している。	意見箱を設置しているが、要望は直接言われる方が多い。これまで、衣替えや外出・受診支援の要望が寄せられた。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1回、ケア会議を通して意見交換している。	毎月スタッフ会議を開催し職員の意見を聞いている。献立発注の業務分担、ベランダの使用法、2名体制時の掃除機のかけ方など様々な意見が出され採用された。3か月に1回併設デイサービスの職員を交えての全体会議を開き意見を出し合って協力体制を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	雇い入れ通知書面にて提示している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	各研修会への参加要請、費用を負担している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	呉市主催の集団指導研修会、県介護福祉士会主催の研修会へ参加。		

グループホームすまいる焼山

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	自宅訪問を含め、生活環境を確認することと、本人・家族等へのヒアリングを実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	自宅訪問を含め、生活環境を確認することと、本人・家族等へのヒアリングを実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	自宅訪問を含め、生活環境を確認することと、本人・家族等へのヒアリングを実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	生活上必要な作業と一緒に取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族とともに、本人を支えている事を声掛けし、常に連携を取り面会等促している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人・知人の面会を歓迎し、再度の来所を促している。	小学生の頃の友人、自治会で役員をされて親交のあった方や、買い物の途中で出会った友人などが誘い合って訪問され、喜ばれている。ホーム職員からも再訪をお願いしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	共用部で過ごす時間を設け、交流を促している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所された利用者の家族が、時折来所され、馴染みの職員と色々な話をしている。		

グループホームすまいる焼山

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常会話の中にヒントがあるとならえ、本人の意向をくみ取っている。	職員は利用者との何気ない日常会話から希望や意向をくみ取るように努め、ケース記録に残し共有し、ケース会議で検討し本人の意向に沿える支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	訪問調査、ヒアリングを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	訪問調査、ヒアリングを行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケア会議、担当者会議を実施	3ヶ月に1回モニタリングを行いアセスメントの上、家族の意見を聞き担当者会議を実施し介護計画を作成する。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	業務日誌、ケース記録を活用。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	一人一人のニーズに合わせた計画を立てている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近隣の施設の活用、公園等へ外出し楽しみを見つけるサポートを実施。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に1回、往診を実施し、連携を密に取っている。	月1回内科医・薬剤師の訪問診療があり、毎週歯科医・歯科衛生士の訪問診療があり、医師と緊密な関係を保っている。	

グループホームすまいる焼山

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に1回、訪問を実施し、連携を密に取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入所中、入院中の情報交換や、退院時の看護サマリの活用。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に書面にて家族に説明。本人の意向、家族の意向を充分にくみ取れる様、話し合う場を設け、支援している。	契約時に書面で本人家族に説明する。看取り、急変時、終末期には改めて意思確認し医療と連携を深めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	勉強会を実施。かかりつけ医、訪問看護にアドバイスを貰っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練の実施。	消防署職員3名により、初期消火、煙害への対応、救助の待機方法等の指導を受け、昼間、夜間想定訓練等利用者も参加して年2回実施している。	
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	慣れる事から言葉がけが雑になりがちなため、指導を続けている。	トイレ誘導は目立たないように声掛けしている。お通じの有り、無しの確認等言葉遣いについて職員全員がお互いに注意しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	定期的に本人の意見を個別に聴ける様に心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	生活リズムが崩れない程度を見極め、本人の意思決定を支持している。		

グループホームすまいる焼山

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣類の確認や、定期的な訪問美容の利用を促している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	概ね全員の方が、食事の準備に関われる様、支援、声掛けを行っている。	外食業者からレトルト食品を購入し、加熱して盛り付けを利用者に手伝ってもらっている。下膳、テーブル拭き等手伝われる方もある。月1回フロア単位で外食する。回転寿し、刺身定食、うどん等季節に応じて出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	計画的な献立と、安全な食事形態を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後の口腔ケアと、訪問歯科を利用。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	日中と夜間の対応方法を変えたり、ポータブルの活用を行い、支援している。	日中オムツは1名のみで、紙パンツ、布パンツとパットで対応している。その方に応じた誘導で便意を維持する様努めている。 病院より退院後、誘導により、おむつ使用よりリハパンツに改善された例も有る。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便の確認と水分補給、運動を促し、かかりつけ医に相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	予定を組んで対応しているが、体調や気分配慮して対応している。	入浴は週2回午前中を基本としているが、汗かきの方や夏の暑い時期には柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	環境の整備と声掛けを実施。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	主治医、薬剤師、訪問看護師と連携し対応している。		

グループホームすまいる焼山

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	本人の趣味嗜好をくみ取り、他の利用者も楽しめる様、対応している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩や外食、お花見等に出かけている。	気候の良い時には出来るだけ毎日団地内公園や買い物など散歩に出かけている。又外食やお花見、地域のお祭りなどに出かけている。フロアー毎に清水劇場へ観劇に行くこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個人用のお金を預かり対応、一緒に買い物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	郵便物の受け渡し支援や、手紙のやり取りを支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	壁面に、制作物を設置し、季節感を出している。	デイルームの壁はミントグリーン床はグリーンで優しい雰囲気である。此処で、テレビに合わせて体操したり書道・絵手紙・工作など趣味の作業をする方もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用部分は、時折模様替えし、対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人に合わせ、家族に調整をお願いしている。	テレビ、チェスト、時計などの持参、毎月手作りするカレンダー、家族の写真等飾ったり自分の好みで、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	調理や作業に皆が取り組みやすい環境を提供。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームすまいる焼山

作成日 平成27年9月18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	親しみのある声掛けが、馴れ馴れしい言葉になる。	尊厳のある言葉かけを行う。	接遇の外部研修に参加し、施設内でも勉強会を行う	3ヶ月
2	3	地域の方との接点が少なく、地域運営推進会議が中心である。	当施設で催し物をする際に、地域の方を招待する。	運営推進会議などで、当施設に来所して頂きやすい催し物、クリスマス会などを企画する。	3ヶ月
3	35	災害等の非常時の準備、避難訓練が不十分である。	災害時、利用者を安心、安全に避難させることが出来る。	年2回の避難訓練を実施し、ミーティングを行い、不備な点、心配な点を解消していく。	6ヶ月
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。